

33 そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていて、

34 「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなされた」と言っていた。

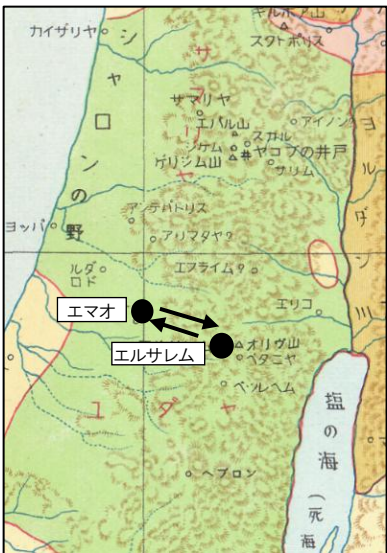
35 そこでふたりの者は、途中であったことや、パンをおさきになる様子でイエスだとわかったことなどを話した。

36 こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。〔そして「やすかれ」と言われた。〕

37 彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。

38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。

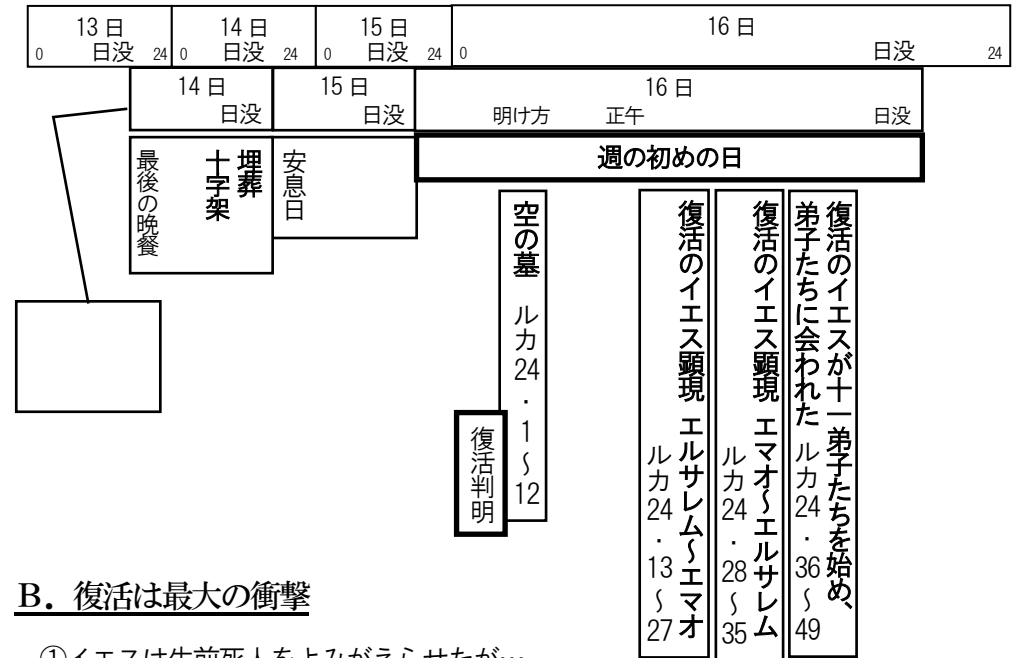
39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。



「エマオへの道」 S・ライスダール作 (1668年)

A. 時系列

◎イエスの復活 ～ 週の初めの日 ～



B. 復活は最大の衝撃

- ①イエスは生前死人をよみがえらせたが…
 - a. ナインという町でやめめの一人息子 (ルカ7：11～16)
 - b. マルタとマリヤの兄弟ラザロ (ヨハネ11章)
 - c. 二人とも一時的なものであり、永遠ではない
- ②復活のイエスは次元を超えている
 - a. 復活の体を持っている
 - b. 体がありながら、弟子たちの前に急に現れる
 - c. 食事ができる (ルカ24：41～43)

C. 弟子たちの信仰

- ①十字架前のイエスに対する信仰 (イエスのわざを目撃)
- ②十字架で信仰は完全に粉砕された = ゼロになった (暗黒の3日間)
- ③復活のイエスに出会い、信仰が新たに建て上げられていく

D. 復活は力

- ①弟子たちは「復活」を語り続けた (嘲笑されても…)
- ②「なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。」 (ピリピ3：11)